

日没時におけるヤンバルクイナの水場への出現と その際の若干の行動観察

池 長 裕 史¹

はじめに

ヤンバルクイナ *Rallus okinawae* YAMASHINA et MANO は、1981年11月13日、「世紀的」な発見としてマスコミに発表され、12月25日に、我が国では59年ぶりの鳥類の新種として記載された (Yamashina and Mano 1981)。

本種は、新種発表以前から「新種らしいクイナがいる」ということで、地元の野鳥観察家たちが随分捜し求めていたがなかなか見つからなかった鳥であるため、「発見」後の調査でも断片的な情報が得られたにすぎず、出現が継続的に観察されたのは国頭村の安田と奥間のみであった (真野 1982, 佐藤 1982, 友利 1982a・1982b, 山階鳥研標識室 1983, 花輪ら 1983, 沖縄県自然保護課 1983)。特に安田では家畜用の配合飼料などに半ば餌付けされた状態となり、1981年11月23日以来何度も出現が観察され、1982年5月には、ヒナを連れた姿が新聞やテレビなどで報道された。同地は一時期「ヤンバルクイナの森」とも呼ばれ、報道関係者などによって多くの写真が撮られたようであるが、一部の人のによって、撮影用テントが長期にわたって張りっぱなしにされたり、一帯の草が刈りはらわれたりなど本種の保護に無神経な行為もあったと聞く。一方、奥間は副模式標本 (Paratype) の捕獲地で (Yamashina and Mano 1981, 山階鳥研標識室 1982)、自然状態のヤンバルクイナが何度か観察されている (花輪ら 1983) が必ずしも同一観察者によるものではなく、数人の野鳥観察家による「ヤンバルクイナを見た」というだけの記録に止まっているようである。

筆者は自宅に比較的近い大宜味村内の沼沢地に出現する自然状態のヤンバルクイナを継続的に観察する機会を得た。観察時間は未ださほど長くはなく、本種の生活史、行動、生態を知るために十分なデータを得るには程遠いが、ここで観察された行動などの記録は本種の研究を行う上での基礎的な資料となり得ると思われる。

今後、より多くの熱心でかつ自制心のある野鳥観察者たちが本種を科学的・定量的に観察し、本種の保護のために必要な知見を集積されることを希望し、その際の参考になれば幸いであると思い、とり急ぎ報告する。

なお、日本野鳥の会研究部の花輪伸一研究員からは生息地などに関する情報と文献の提供および多くの助言をいただいた。ここに厚く御礼申し上げる。また大阪市立大学理学部生物学教室の上田恵介氏は原稿に目を通してくださり様々な援助をしてくださった。鳥声録音家の蒲谷鶴彦氏は鳴き声の録音テープを聞いてくださりその意味について意見を述べてくださった。あわせて深く感謝の意を表す。

1983年9月20日受理

1. 池長裕史 〒905-12 沖縄県国頭郡東村字宮城25-1

調査場所および調査方法

1. 調査場所について

本種は前述のとおり、きわめて発見しにくい鳥であり、確実な生息地はまだあまり知られておらず(友利 1982b, 花輪ら 1983, 沖縄県自然保護課 1983), また、現在知られている生息地についても、常時観察されているわけではない。特殊鳥類の指定を受け、国指定の天然記念物になったとはいえ、それだけでは本種は未だ必ずしも十分な保護下にあるとはいえない。そのため、生息地が発見されたとなると、様々な形で人による影響が加えられることが懸念される。本報告は、具体的な生息地を発表することがその目的ではないので(むしろ、他の場所でも本種の出現観察が可能であることを示唆しようとするものである), より適当な時期が来るまで、地図などの発表はさしひかえ、ここでは、大宜味村内の沼沢地とのみ記しておくたい。

この調査地では、水位が低いときには池の周囲に幅約2~4mの岸が現われ、その上部はススキや灌木の生い繁る藪から森林へと続いている。そして水位が高くなると岸の部分は水没し、水面にススキなどが垂れ下った状態となる。

2. 調査方法

調査は1982年8月~1983年7月の約1年間に37回(同じ日に何度か調査した場合も1回とした)行なった。のべ観察時間は約63時間であった。ヤンバルクイナを最初に目撃した

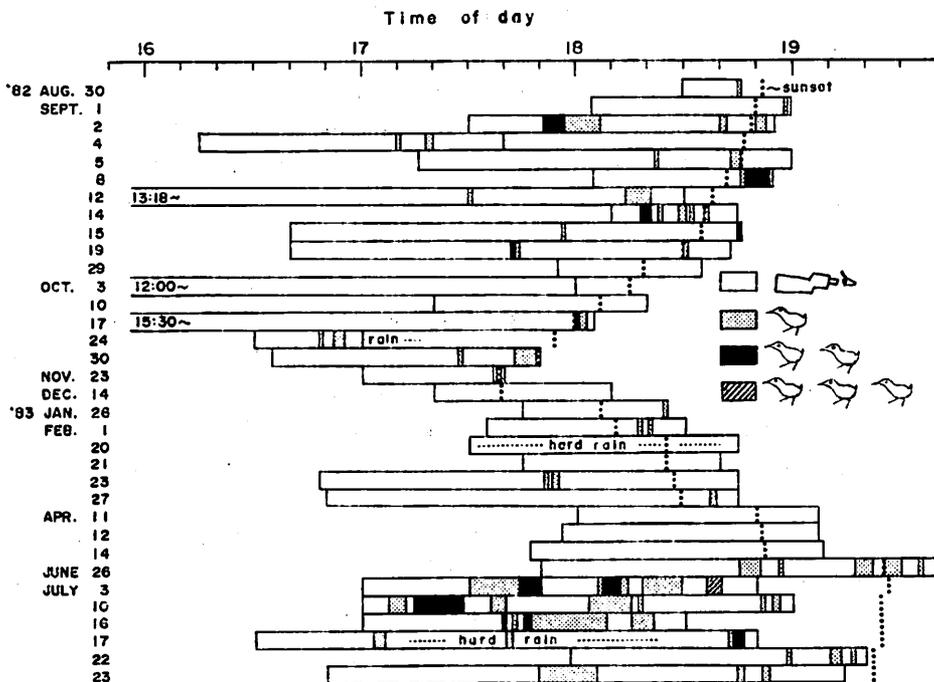


図1 ヤンバルクイナの日没時における水場への出現
Appearance of Okinawa Rail at a water site in late afternoon.

表1 ヤンバルクイナの水場への出現時刻
Time of appearance of Okinawa Rail at a water site

| No. | Date | Time of observation | First appeared | Total time present (min.) | Time of sunset or ※sunrise | Note |
|-------|-------------|---------------------|----------------|---------------------------|----------------------------|--|
| 1 | '82 Aug. 30 | 18:30—18:46 | 18:45 | 1 | 18:52 | |
| 2 | Sep. 1 | 18:05—19:00 | 18:58 | 1 | 18:50 | |
| 3 | 2 | 17:30—18:55 | 17:51 | 21 | 18:49 | |
| 4 | 4 | 16:55—17:40 | 17:10 | 3 | 18:47 | rainy |
| 5 | 5 | 17:16—19:00 | 18:22 | 4 | 18:46 | |
| 6 | 8 | 18:05—18:55 | 18:46 | 8 | 18:42 | |
| 7-1 | 12 | 6:55— 9:30 | — | — | ※6:13 | |
| 7-2 | | 13:17—18:30 | 17:30 | 8 | 18:38 | |
| 8 | 14 | 18:10—18:45 | 18:18 | 8 | 18:36 | |
| 9-1 | 15 | 6:00— 7:00 | 6:04 | 5 | ※6:15 | |
| 9-2 | | 16:40—18:46 | 17:56 | 2 | 18:35 | |
| 10 | 19 | 16:40—18:43 | 17:42 | 3 | 18:30 | |
| 11 | 26 | 6:20 | — | — | ※6:19 | Soon after typhoon water level high |
| 12 | 29 | 17:55—18:35 | — | — | 18:19 | water level high |
| 13-1 | Oct. 3 | 6:00— 7:40 | 6:57 | 1 | ※6:22 | |
| 13-2 | | 12:00—18:00 | — | — | 18:15 | |
| 14 | 10 | 17:20—18:20 | — | — | 18:07 | |
| 15 | 11 | 6:20— 7:15 | — | — | ※6:26 | |
| 16 | 17 | 15:30—18:05 | 18:00 | 3 | 18:00 | |
| 17 | 24 | 16:30—17:00 | 16:48 | 4 | 17:54 | rainy |
| 18 | 30 | 16:35—17:50 | 17:27 | 7 | 17:49 | |
| 19 | Nov. 23 | 17:00—17:40 | 17:37 | 1 | 17:37 | |
| 20 | Dec. 14 | 17:20—18:10 | — | — | 17:39 | water level high |
| 21 | '83 Jan. 26 | 17:45—18:25 | 18:25 | 1 | 18:07 | |
| 22 | Feb. 1 | 17:35—18:30 | 18:17 | 2 | 18:11 | |
| 23-1 | 20 | 6:30— 8:30 | — | — | ※7:02 | water level high |
| 23-2 | | 17:30—18:45 | — | — | 18:25 | rainy |
| 24 | 21 | 17:45—18:40 | — | — | 18:25 | water level high |
| 25 | 23 | 16:00—18:45 | 17:51 | 3 | 18:27 | |
| 26 | 27 | 16:50—18:45 | 18:37 | 2 | 18:29 | |
| 27 | Apr. 11 | 18:00—19:07 | — | — | 18:50 | water level high |
| 28 | 12 | 17:56—19:07 | — | — | 18:51 | water level high |
| 29 | 14 | 17:47—19:08 | — | — | 18:52 | water level high |
| 30 | May 7 | 6:05— 7:25 | — | — | ※5:48 | water level high |
| 31 | Jun. 26 | 17:50—19:40 | 18:45 | 18 | 19:25 | |
| 32 | Jul. 3 | 17:00—18:50 | 17:30 | 43 | 19:26 | |
| 33 | 10 | 17:00—18:00 | 17:07 | 38 | 19:24 | |
| 34 | 16 | 17:00—18:30 | 17:09 | 30 | 19:24 | |
| 35 | 17 | 16:30—18:50 | 17:03 | 7 | 19:24 | rainy |
| 36 | 22 | 17:58—19:20 | 18:58 | 4 | 19:22 | |
| 37 | 23 | 16:50—19:14 | 17:49 | 20 | 19:22 | |
| Total | | 63 hrs. 32 min. | | 4 hrs. 8 min. | | |

のが夕刻であったため、調査は主として日没時刻前後に行ったが、早朝や日中にも数回程度調査を行った。夜間調査はしなかった。

1982年11月から1983年5月までの間は比較的降雨が多かったため、水場はほとんど常に満水状態であった。特に1983年3月は異常なほどの降雨つづきであったため調査に出かけられず、この期間は十分な調査を行えなかった。

観察にはもっぱら8×30の双眼鏡と25×60の望遠鏡を用い、本種がよく出現する岸辺から50mほど離れた対岸を定点として観察をつづけ、出現時刻と行動などを野帳に記録し、その位置や動きを地図上に記入した。

結果および考察

1. 水場への出現時刻

本種の水場への出現を観察したのは表1に示したとおり26回のべ4時間あまりであった。出現時刻はいずれも日没時前後あるいは早朝に限られ、日没時の調査(図1)では、日没時刻の約2時間前から10分後までの間によく観察された。日中の調査は、1982年9月と10月とに一度ずつ行っただけであるが、水位、天候などの条件は悪くなかったにもかかわらず、本種は夕方まで出現しなかった。日没後約20分で調査地周辺ではほとんど視界がきかなくなり、調査を打ち切ったので、その後夜間の出現状況は不明である。また、調査は主として晴天時に行っているもので、曇天時や雨天時の出現時間帯についてもわかっていない。

本種は9月から11月にかけては音に対して非常に敏感なようで、遠くの自動車の音や上空の飛行機などの音、あるいはカメラの一回のシャッター音で数十メートル先にいる個体があわてて森の中へ逃げ込んでしまうのを観察したが、7月では比較的臆病ではなくなるのか、調査地の横を自動車を通っても森へは入らず裸地に出たままであったり、カメラのシャッター音にもあまり反応を示さなかった。また、土砂降りの雨の最中でも変わらず姿を見せていた。そしてこの時期では夕方の出現時刻がやや早いようであった。

2. 行動について

1) 歩行

本種は水場へは歩いて出て来た。もっぱらウォーキングのみで、ホッピングをしたことはなかった。その他に、比較的早く走ることもあった。また、急な斜面を直線的にかけ上る際に翼をはばたくことがしばしば観察された。はばたくと体が少し浮きあがるようであったが、飛翔することはなかった。

2) 水あび

以下の日時に本種の水あびを観察した。

| | | | | |
|-----------|----------|----------|----------|---------------|
| 1982年9月2日 | 17:53~56 | 1羽, | 18:02~06 | 別の1羽 |
| | 12日 | 18:14~15 | 1羽 | |
| 10月17日 | 18:00~02 | 1羽 | | |
| | 24日 | 16:52~55 | 1羽 | |
| | 30日 | 17:44~46 | 1羽 | |
| 1983年7月3日 | 17:34~35 | 1羽 | | |
| | 10日 | 17:36~40 | 1羽, | 18:03~05 別の1羽 |
| | 16日 | 17:50~54 | 1羽 | |

水あびは常に1羽で行われ、2羽が連れだって出現した際も水あびは別々に単独で行った。水あびの時間は2～4分間で、何度も頭から水にくぐってはまた頭を上げ、翼を左右同時にはばたくようにしたり、交互にこすり合わせるようにして、時々クチバシで羽をつくろったりしながら、また水にくぐるという行動をくり返した。

3) 羽づくろい

水あびがすんだ後、森林部と裸地との境目まで上って羽づくろいをした。水あびをしなかった場合でも林縁部で長く羽づくろいをしていることがあった。

水あびの直後は、翼をダラリと少し広げて下げ、かわかすようにしたり、クチバシで翼をはさんで水を切るようなしぐさをくり返した。時々立ち上ってはばたくこともあったが、この時体が少しくきあがって、しばしばバランスをくずした。その後、翼や背、腹を何度もクチバシでつついたり、直接法で頭かきをした後、のび（頭を前に出して体をほぼ水平にして首をのばし、翼を上にはひろげて少しそり返る）をしたり、強くはばたいて一回跳び上ったりしてから森の中へ去って行った。羽づくろいの時間は水あびに要した時間よりも長く、通常4～5分間で、20分近く羽づくろいしていたこともあった。

4) 泳ぎ

1983年6月26日19:20, 7月10日17:07, 7月17日18:43の三度、いずれも1羽で泳ぐ姿を観察した。

最初の例は、岸から水の中へどンドン歩いて行き、赤い足が見えなくなると同時に、ずっと体を前に出して泳ぎはじめ、直線的に15mほど泳いで対岸にわたったもので、バン *Gallinula chloropus* よりも随分沈んだ感じで、首をほとんど前後させることなく前に出したまま、ゆっくりだが比較的なめらかな泳ぎであった。尻をやや上げて尾羽は水面よりあがっていた。姿勢はクイナ *Rallus aquaticus* の泳ぎ (Morii 1981) と同じ形であった。

次の例は、観察地点のすぐ下を手前の岸から向う岸に約10m泳ぐ姿をやや上方から観察したものであった。このときは水の中で赤い足を歩く時のように交互に前後させて、足指を前に出す時とはじ、後にける時にひらいているのがよく見えた。泳ぐ姿勢は最初の例と同様であった。

三度目に見た時は、前二回とはやや異なり、首を前後にふりながら進んでいった。この時も約10mをほぼ直線的に泳いだ。

花輪ら (1983) によれば、「バンのように頭を前後に振りながら進む泳ぎ方であるが、体はカイツブリのように沈み、腹部の縞模様は見えず、尾は水面すれすれであった」とあるので、三度目に観察したのはこの姿勢に該当すると思われ、首を前後させるかどうかは場合によって変わるようである。

本種は、よく水に入って水あびをするし、泳ぐ際も特にためらうようなしぐさをするわけではなく能動的であり、泳ぎ方も巧みであるように見えたが、池を直線的に越える以外、歩ける限りは池の周囲をぐるっと回っており、泳ぐことは少ないようであった。

5) 採食と水飲み

岸に出て来て、地面で何かをついばんだり、地面の木の葉をクチバシでかきわけたりしたが、はっきりと何を食べたのかはわからなかった。また、水際まで出て来て、しばしば水を飲んだが、長時間は続かず、水にクチバシをつけたまま一口か二口飲む程度であった。

3. 他の鳥との関係

ヤンバルクイナとキジバト *Streptopelia orientalis*, キセキレイ *Motacilla cinerea*, バン *Gallinula chloropus* との関係について以下の観察例が得られた。

i) 1982年9月2日18:40

森の中から出て来たヤンバルクイナ1羽が岸近くにいたキジバト2羽をつつくようにして追い立てた。キジバトは飛び去った。

ii) 1982年9月12日18:14

岸辺を歩いて来たヤンバルクイナ1羽が前にいたキセキレイ1羽をつついて追いはらった。

iii) 1982年9月15日6:09

岸辺を歩いて来たヤンバルクイナ1羽が岸にあがっていたバン幼鳥1羽をつついた。バンは水面に逃げた。距離はそう遠くなかったがそれ以上は追いかけなかった。

iv) 1983年6月26日19:17

ヤンバルクイナが1羽、森の中から出て来て、はばたいり岸辺まで出て地面の何かをついばんだりしていたが、キジバトが1羽飛んで来たのに驚いたのか、はばたきながら林の縁までかけ上った。逃げる時は体を前にたおし、低くして、翼を上下に打ちつけるようにはばたいた。こうするとやや体が浮いて速度がつき、翼をひろげたため体がやや平たくなって藪の下に柵にもぐり込めるようであった。相手がキジバトだとわかったのち、今度はキジバトの方に向かって体を大きく見せるように胸をそらして立ち上り、翼をやや前後にはばたきを強めて、バサバサという比較的大きな音をたてて近づき、追いはらった。この時はつつこうとはしなかった。

v) 1983年7月17日17:46

岸を歩いて来たヤンバルクイナ1羽が、水際にいたバン幼鳥1羽をはげしく攻撃した。ヤンバルクイナははばたいてバンを威嚇し、頭を前に出してつつきに行った。バンは飛びはねて羽ばたきながら必死で逃げ、ほとんど抵抗しなかった。

本種はバンとはしばしば一緒に行動しており、バンに対して何ら関心を示さないように見える時の方が多く、攻撃するのを見ることはむしろ少なかった。また、バン以外の鳥と連れだって現れたことはなかった。

本種が他の鳥から攻撃されて逃げるような場面は一度も観察できなかった。また、調査地に出現する水鳥として、オシドリ *Aix galericulata*, カイツブリ *Podiceps ruficollis*, 冬期にコガモ *Anas crecca*, マガモ *Anas platyrhynchos*, ササゴイ *Butorides striatus* などがいたが、本種とこれらとの関係についてはわからなかった。

4. 個体間の関係

1982年9月2日, 12日, 14日, 15日, 10月17日, 30日, 11月23日, 1983年6月26日, 7月3日, 10日, 16日, 22日には2羽以上が出現した。

池の別の側の岸にそれぞれ1羽ずつ出て来たこともあったが、ほとんどの場合2羽で連れだって出現した。2羽は並んで歩いたり、数メートル間隔をおいて別々に行動したりしたが、ほぼ同じ道すじで森の中へ入って行った。

9月2日の例では、本種2羽がバン幼鳥1羽と一緒に同地点より現れた。バンはすぐ水面に出て泳ぎはじめたが、ヤンバルクイナは泳がず水あびをただけだった。前述のように水あびは1羽ずつ別々に行った。先に水あびした個体が森の中に去った後、もう1羽が

この鳴き声は、その前後に別の谷の方などから同じ声が聞こえることが多く、鳴きかわしていると思われる。調査地でも1983年7月17日には五ヶ所以上から声が聞こえており、それ以外の時も数ヶ所からの声を聞いた。また、伊江林道での場合も声が聞こえたのは、ほぼ同時に4ヶ所以上の地点からであった。同様のことは山階鳥研標識室(1983)、花輪ら(1983)でも報告されている。

iv) iii)と同質の声であるが、単独で、断続的に鳴き、「ケッ!キョッ!キョッ!キャッ!…」と聞こえる声、ウグイスの「谷渡り」の後半部分にやや似ているが、大きな声であり、「ケッキョッ!」ではなく、間に「キッ!」とか「キャッ!キョッ!」と聞こえるすどい声が入るという違いがある。1982年9月5日18:11, 12日16:46, 1983年7月19日17:56, 22日19:17に聞いたが、鳴く姿は観察していない。この声の質はノグチゲラ *Sapheopipo noguchii* の「キョッキョッキョ…」という声によく似ており、1982年10月10日6:30に伊江林道でこの声を聞いた時、ノグチゲラの姿を見るまで、筆者には区別がつかなかった。ただし、ノグチゲラは通常は「クィッ!クィッ!」というより鋭い声を一声ずつ出して樹冠を飛ばすこと、ヤンバルクイナの声は地面の方から聞こえて来ることなどの相違がある。

6. 個体差など

本調査域で、直接、同時に目撃した最多個体数は3羽で、このうち2羽は連れだっており、他の1羽は別の側の岸で行動していた。外観上で本種の雌雄を区別できるような相違点は見つけられなかったが、各個体間についてはやや差異を認めた。

i) 目の後ろの白線の切れ、つながり程度

続けて観察した際、現れた個体が同一個体であるかどうかを判断するのに、本種の目の後ろの白線の切れ、つながりの程度によって識別した。その結果、たとえば、1羽が水あびをして森に去った後、出て来て水あびをした個体は明らかに別個体であるということがわかった。しかし、この方法では、多くの個体のすべてを識別することはできないし、時期が変わっても継続的に区別できるかどうかわからない。また、倍率の高い望遠鏡を用いなければ判別しにくいので、藪の切れ間を動きまわっている場合や、暗くなってから出て来た場合などは使えないことが多かった。

ii) 体の大きさ

2羽で連れだって出現した際、体の大きさにやや差があるように見えることがしばしばあった。しかし行動上、特徴的な差は見つけられなかった。

iii) 足の色

初めて本種を観察した時、そのクチバシと足の赤い色が非常に印象的であったが、1983年7月の調査では、足の色が橙色系の個体と紅色系の個体とが観察された。

ii), iii)については、少なくとも体色からは成鳥と思われる個体であったが、その差異が雌雄による差なのか、齢によるものなのか、あるいは、それ以外の理由によるものであるのかよくわからなかった。ただ、個体ごとの行動をわけて記録する際に識別点としては役立った。

7. 鳴き声の意味などについての考察

1983年7月10日, 16日, 23日の観察では、はじめに「ケッ!キョッ!キョッ!」と一声ずつ鳴いていた個体が「ケッキッキッキ キョッキュルルリイヤー!キョッキュルルリ

イヤー!…」と鳴きはじめ、数十回この声をくり返した後、おそらく2羽の声で「ケッキョッキョッキョッキョッキョッキョッキョッキョッキョ…」と鳴いた。その後、この2羽の声は止まったが、周囲の谷間数ヵ所から同様の「キョッキョッキョッキョ…」という声が響きわたった。

ここで、この「キョッキョッキョッキョ…」という声はちょうど「呼びかけ」のように聞こえ、何度もの「呼びかけ」の後、これにこたえて出て来たもう1羽（おそらく配偶関係にあると思われる）と鳴き合い（デュエット）したように思われた。そしてこの鳴き合いは同時に、何らかのテリトリー宣言に相当し、他のテリトリーのペアもこれにこたえて鳴きかわしたかのものであった。本種が本当にテリトリーをもっているのかどうか、もっているとすれば、それは、どういう意味があり、どのくらいの広さなのか不明な点が多いが、本種の他の鳥への攻撃なども、何らかのテリトリー防衛行動であると考えられることもできる。

ペア同士の「鳴き合い」の声とそれにつづく別のペアからの「鳴きかわし」現象は調査期間を通じて聞かれたが、「呼びかけ」と思われる「キョッキョッキョッキョ…」という連続した声は7月中・下旬以外には聞けなかった。本種のヒナが1982年5月中旬に保護されており、下旬にはやや大きいヒナを連れた親鳥の姿が新聞、テレビで報道された。また、副模式標本の幼鳥が捕獲されたのは1981年6月28日（Yamashina and Mano 1981）であることから、7月は、これらのヒナの独立（親離れ）の時期に相当するものと考えられる。本調査では、この時期には、調査地の周辺にそれまでなかった本種のものと思われる足あとが多数見られること、水場での滞在期間が長くなり、出現時刻もやや早くなるなど、行動上の変化が認められた。7月3日に観察された他個体への羽づくろい（allopreening）や「呼びかけ」と思われる声をあわせて考えると、この時期は、さらに雌雄間についても何らかの行動、関係の変化が見られる時期にあたっているのかも知れない。

本種が年に何回繁殖するのか全くわかっていないが、少なくとも産卵、育すうの時期であると思われる3月～6月に十分な調査ができなかったため、水場への出現の状況については不明である。1978年7月9日に親子連れ5～6羽の目撃記録（真野 1982）もあり、繁殖期間は7月までおよんでいる可能性もあるが、本調査地の水場へは、ヒナ、幼鳥が出現したことはなかった。8月以降の水場への出現は、その様子がほとんど変化せず、定例的であったことから、その後3月ごろまでは非繁殖期と思われる。いずれにせよ、本種の繁殖生態については現在の所全くわかっていないが、水場への出現状況とその際の行動からだけでは類推は困難である。

「キョッキョッキョッキョ…」という声が「呼びかけ」の意味をもつとすれば、録音した声を適当な時期に流せば本種を呼び出すことが可能かも知れない。また、「キョッキョッキョッキョ…」と鳴き合うデュエットの声が何らかのテリトリー宣言で、他のペアもこれにこたえて鳴きかわすとすれば、この声も、同様に録音して流せば反応が得られるように思われる。実際、1983年7月23日にこの声の録音に成功した後、現場で再生した所、その直後にすぐ近くで鳴きかわす声を聞いた。

本種が森林性の飛べない鳥であるならば、配偶者選択、個体認知などに鳴き声を使っている可能性は高いと思われる。前述の声が実際に繁殖、配偶行動、縄張りなどと関連のある声であるとすれば、録音テープを同じ地点でむやみに何度も流すことは本種の生活域を乱すおそれがあるので慎重でなければならないが、適当な時期、時間帯がわかれば、本種

の分布域、生息数などの調査に用いることが可能と思われる。

しかしながら、非常によく響きわたる大きな声であるにもかかわらず、その姿同様、これまでほとんど知られていなかったということは、鳴き声を出す時期、時間帯がよほど限られているか、あるいは、分布域がやはり極めて限られており、生息数もそう多くないということになるだろう。

要 約

1982年8月から1983年7月までの約1年間、沖縄島北部の大宜味村内の水場でヤンバルクイナの野外観察を行い、出現時刻、行動に関して若干の知見を得た。

1. 37回、約63時間の調査中、ヤンバルクイナが出現したのは26回、観察時間はのべ約4時間であった。本種は日没時前後や早朝によく出現し、出現場所はほとんど変化しなかった。
2. 出現の際の行動として、歩行、水遊び、羽づくろい、泳ぎ、採食と水飲みなどを観察した。
3. キジバト、キセキレイに対して攻撃し、追いはらうことがあった。また、バンとはしばしば行動を共にしていたが、時には攻撃し追いはらった。
4. ヤンバルクイナはしばしば2羽連れだって出現した。追いかけて行動と他個体への羽づくろいなどがそれぞれ一度ずつ観察された。
5. およそ4種類の鳴き声を記録した。そのうちのひとつは「呼びかけ」の意味をもつと思われる、別のひとつは2羽による鳴き合いで「縄張り宣言」の意味をもつらしく、他からの鳴きかわしが認められた。
6. 出現した個体間には、体の大きさ、足の色、目の後ろの羽毛などにやや差異があった。
7. 7月には水場への出現の時刻、滞在時間、鳴き声などの状況が他の時期とやや異なるようであった。

文 献

- 花輪伸一・塚本洋三・武田宗也 1983 ヤンバルクイナの分布域と生息状況に関する調査報告。昭和57年度特殊鳥類調査、環境庁、1—30。
- 真野 徹 1982 沖縄の森から奇跡の鳥が現われた。アニマ、110: 27—32。
- MORII, T. 1981 たくみに泳ぐクイナ(写真)野鳥グラフ、2: 15。
- 沖縄県自然保護課 1983 鳥獣保護対策環境調査。54 pp。
- 佐藤文男 1982 ヤンバルクイナってなんだ。動物たち、13: 52—56。
- 友利哲夫 1982a 私とヤンバルクイナとの出会い。クォーク、1: 128—129。
- 友利哲夫 1982b ヤンバルクイナが危ない!。青い海、111: 18—21。
- 山階鳥類研究所標識研究室 1982 昭和56年度鳥類観測ステーション報告、222—225。
- 山階鳥類研究所標識研究室 1983 昭和57年度鳥類観測ステーション報告、258—263。
- YAMASHINA, Y. and T. MANO. 1981. A New Species of Rail from Okinawa Island. J. Yamashina Inst. Ornith. 13(3): 1—6。